

東京五輪物語

1964 - 2017 - 2020

わたしの一枚

選手村で旧ソ連の選手と

笑わぬ2人 君の名は

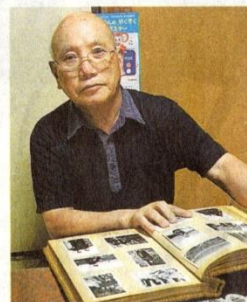
選手村で一緒に写真に納まった2人の選手に、笑顔はない。うち1人はカメラを向いてすらいない。旧ソビエト連邦の重量挙げの選手のはずだが、特に会話もなく、名前も聞かなかつた。「冷戦の影響もあって、敵味方みたいなものだから、表情も硬かったんだろうね」。この2人の中で写る井上朝八郎さん(74)＝東京都練馬区＝は振り返った。

防衛大学校生だった井上さんは東京五輪が開かれていたある日曜日、同級生と東京・代々木の選手村を訪れた。

選手村の警備は自衛隊が担当していた。先輩が警備隊長をしていて、入れてくれるよう頼むと許可証をもらえた。

村内には各国の選手がたくさんいたが、声を掛けられる雰囲気ではなかった。この2人との一枚が選手と撮れた唯一の写真だった。ベンチに座っていたのを見かけ、英語や身ぶり手ぶりで写真を撮って欲しいと伝えると、「どうぞ」と言うように、手を出してくれた。「4人くらい座れるベンチで、2人分ほど占領していた。体の大きさに圧倒された」

当時暮らしていた神奈川県横須賀市の寮にはテレビがなく、競技を観戦することはほとんど



なかった。

2人のことも長らく分らないままだった。昨年になってインターネットで検索し、カメラを向いていない方の選手はヘビ―級で金メダルを取ったレオニート・ジャポチンスキーさんではないかと目星がついたが、もう1人はよくわからない。

ジャポチンスキーさんは昨年1月に亡くなっていった。そのことを記者が伝えると、「写真を持って会いにきたかったな」と残念がった。(大坂尚子)

思い出の写真をお寄せ下さい

東京五輪の思い出の写真をお寄せ下さい。当時の写真をコピーして裏に説明を書き、〒104・8011(所在地不要)朝日新聞報道局スポーツ部「五輪物語」係へ。写真はお返しできませんので、必ずコピーをお送り下さい。電子データはメール(gorinmonogatari@asahi.com)でも受け付けています。

◆写真のご利用は朝日新聞フォトアーカイブへ。電話03・5541・8138(法人)、0120・576・756(個人)。ウェブサイトhtt



◀井上朝八郎さん

▲選手村のベンチで旧ソ連の重量挙げ選手とみられる2人にはさまれ、写真に納まる井上朝八郎さん＝井上さん提供